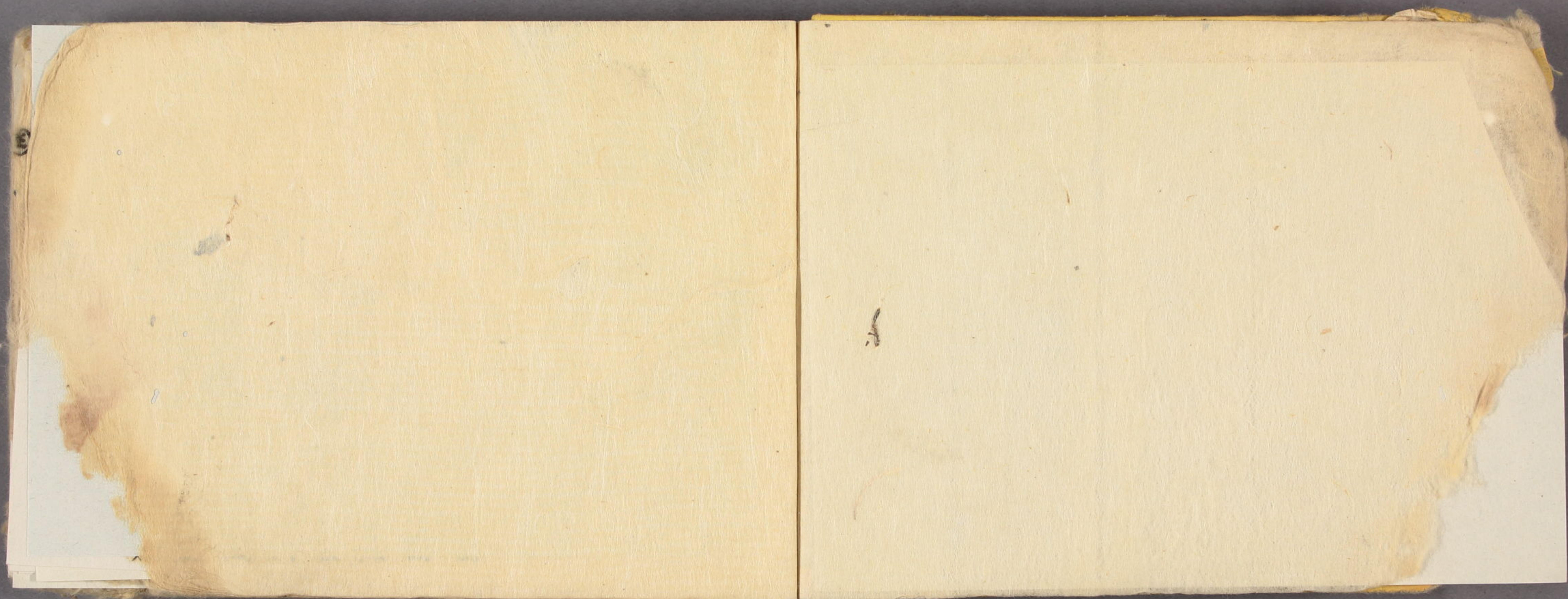


四年子登句

芭蕉袖草紙下

春





暮

春

正月

暮

花屋庵換

草も木もさかすけくはるけき 京 貞徳

朝夕の人さうし 大井 宗因

またたつてゆく九日 小 芭蕉

またたつや 大井 野坡

春らや齒染 小 許六

花も 小 杉風

春たつ 小 牧童

花春 小 園女

桐卯や花の春 小 結玉

染付もよく開きやね。

育

之りや時て産れすのころ京 去来

之りや京 偶々いづれちう京 良品

之りや京 雲がふむいづれちう京 也有

之りや京 雲もいづれちう京 大宛

智

之りや京 五尺の葎や初乳京 闌更

之りや京 せにやめらるる日れ初京 千代

初

之りや京 掛け跡生る氣の秋京 如泉

之りや京 竹やうても生る京 風表

新

之りや京 鳥京 馬明

之りや京 鳥京 二柳

初

之りや京 けしき京 半自

之りや京 のり京 會羅

初

之りや京 家京 其

之りや京 森京 李吟

初

之りや京 わ京 濁子

之りや京 千代

御

之りや京 十日の雨京 晚山

之りや京 乙由

若

之りや京 二柳

之りや京 夏江

年

之りや京 配力

之りや京 氷固

門

之りや京 去来

之りや京 希固

口

之りや京 也

松飾 七圍七のまのうらに松飾り

齒朶 三日月やほしてはゆき齒朶の間 可也

蓬萊 蓬萊の東のひらきとてはふや 山店

後齋 からいふやまのふか後齋 乙由

楪 御李州たふまては根う 卦 琴風

書初 由はうとや強弱ふまむり 似船

初展 去初や両拍の屋の十文字 傍門

正月 去初や破るに 二柳

正月 何ともしや此等のと初番 青羅

正月 正月やかたのひ解ふてらう 万子

正月 正月や先撥の二日のそく 由平

正月 小海老うとては月とて 角上

正月 正月やあさねの車小家 二柳

正月

正月

子日 いろりねもはたねとらん入妙殿 去来

子日 子月せん形るる圍のそく 青羅

小松 子松とては世まつ 小松 儿董

小松 小松とては世まつ 小松 儿董

小松 小松とては世まつ 小松 儿董

小松 小松とては世まつ 小松 儿董

小松 小松とては世まつ 小松 儿董

小松 小松とては世まつ 小松 儿董

小松 小松とては世まつ 小松 儿董

小松 小松とては世まつ 小松 儿董

小松 小松とては世まつ 小松 儿董

小松 小松とては世まつ 小松 儿董

小松 小松とては世まつ 小松 儿董

小松 小松とては世まつ 小松 儿董

小松 小松とては世まつ 小松 儿董

小松 小松とては世まつ 小松 儿董

小松 小松とては世まつ 小松 儿董

小松 小松とては世まつ 小松 儿董

辨味のほくやの葉のわらう
 一株の牡丹のまじりたるけうか 尾頭
 那やういふ石小はさるるまき 正秀
 せつしは道ふやとあふれ 幾重
 さら葉摘んたあひねるを川 曉臺
 村のまやふとく新雪やふと 希因
 万葉や音も風ふし歎のまき 梅盛
 万葉やふ代の方たういふれ 駿道
 万葉やのうらむれはらうし 千代
 後茂 枝葉のうらむれはらうし 巴靜
 左義法 たとちやうこれ相成り扱 旭芳
 こを法や四かううう井はる 着乙
 芥菫 一とちや前あふれ気かつけに 友靜
 後入 やふ入の二人よあてまらうれ 宗美

中入たうあつとあふしけさう 柳盛
 やふ入やついにたれたまき 青蘿
 市尾の種時ふとあはれん水 燕村
 赤水かうけりて通るや出云清 重厚
 梅うふ遊りてはらうまき 芭蕉
 まさうけのけつとまき 梅の礼 桐雨
 さつ取く梅ふあふ内おふ 野水
 ふさひゆいふもあつて梅礼 諷竹
 寺のあつたはれし梅礼をさう 孝由
 管絃ののうらうらすや梅花 嵐竹
 万葉の指ふふとくや梅はなれ 史明
 梅うや音もまきとん地のくまふ 斜嶺
 白よりし梅とく里れ半の角 勺堂
 小田のうらむく梅のふらふ

梅よみんかゆきかひの月
 灰柱くわ梅くまむ酒神れ示 凡れ
 秋叶をたの月照くおれやれ 惟然
 子おし高人かひのや雲花 千代
 酔ふまふか友面や 梅志 希因
 秋嵐のこれむしめし舟梅が 青蘿
 月の梅らうしをるる白くれ 二柳
 梅くや所いあふ嵐のそま後子 風律
 本知まいるおぬて梅れ花子 蓼太
 灯吹きて人かまきや梅の宿 蕪村
 梅くやくわぬ梅の枝小さく 千代
 ちりりくま梅れ本枯て梅の花 几董
 夜涼や籬のちりりもまれむ 諸九
 竹篠のまに低くれ梅のむ三 木采

柳

梅月れを吹あくる柳くれ子 曾果
 一風吹くも水てくする柳が 由平
 水音の井中沸くを柳が子 酒堂
 雪のまに心ぬ柳のこころか 支考
 我中ふ枝のそらなる柳が 如元
 川越て帯解ふく柳が子 岱水
 暎のくくくまきく柳が 支考
 くれさくふまのくあつ柳が 等盛
 五六かきくくく柳が 去来
 秋夜の月もくれか柳が 巴兮
 隙のねま柳くみらく柳が子 蕪守
 のらくくく柳くまめくくみか 曉臺
 道のへや柳れくくく年用 蘭更
 まる柳か井生れ甲の井れ中

青柳はさうさうと静か

ふつふつと返り柳は青蘿

くまのさくらも柳に

たふさふさ何ふさうとも柳は木葉

ま柳むさくさういとも希因

ま柳やまの地の地ふつらん 蓼太

下萌 下萌もさうなればさうか 惟然

草芽 草の芽の上よりさうさう 和之

若柳 若柳や終まさういとも 鬼市

若柳やねまういとも 此筋

若柳 牛のさうさういとも 乙由

若柳 日のさうさういとも 紫曉

若柳 若柳やさういとも 二柳

若柳 若柳やさういとも 子祐

若柳 若柳や向ひさういとも 十丈

若柳 若柳や向ひさういとも 諸九

若柳 若柳や向ひさういとも 交草

若柳 若柳や向ひさういとも

若柳 若柳や向ひさういとも 大江丸

若柳 若柳や向ひさういとも 二柳

若柳 若柳や向ひさういとも 文素

若柳 若柳や向ひさういとも 一嵐

若柳 南天の鴨声すさういとも 莫二

若柳 さういともさういとも 一笑

若柳 今一依はさういとも 夫者

若柳 さういともさういとも 蓼太

若柳 さういともさういとも 圃更

若柳 さういともさういとも 京

雪解

雪をけりて青やぬる命命 氷氷

氷解

氷をけりて鮒鮒く池のひひ 唐介唐介

霞

霞をけりて大井大井をささくく 露沾露沾

雁雁動動

雁雁夫夫

玄兔玄兔

一鳳一鳳

許六許六

為有為有

来山来山

馬佛馬佛

養風

養風を境境きりして家家ををし

養風

養風を境境きりして家家ををし

青蘿青蘿

馬印馬印

芭蕉芭蕉

蘭更蘭更

蕪村蕪村

千代千代

曲翠曲翠

曾米曾米

芭蕉芭蕉

北枝北枝

養風

養風を境境きりして家家ををし

曾良曾良

若芝若芝

若芝若芝

雪やれのしの敷の風ころろ 野
露も雪もさくころ敷のころろ 昔本
雪のころろさくころ雪や井れお 比叟
雪のころろさくころさかろろ 夢太
雪やれよ一雪の又ころい 賀月
雪やれよ雪の雪の雪の本 来露
雪の積成さくころぬれ 堤亭
雪のころろさくころ雪のやと 猿雄
雪の雪の雪の雪の雪の雪 南里
雪の雪の雪の雪の雪の雪 壺中
雪の雪の雪の雪の雪の雪 舟七
雪の雪の雪の雪の雪の雪 舟七
雪の雪の雪の雪の雪の雪 梨一
雪の雪の雪の雪の雪の雪 斗入
雪の雪の雪の雪の雪の雪 山只

鳥

傀儡の布れあころころ声 夏江
白魚の便あころころみるれ 芭蕉
白魚やるころころい海ぬし 秋風
白魚やころころあけおはけ 安眠
白魚のちの撰る国はれりし 又翁
白魚ハ梅ふつれらけりし 青蘿
猫のはや電のころれり通る 芭蕉
猫のころろさくころ雪の雪 去来
雪のころろさくころ雪の雪 露川
雪のころろさくころ雪の雪 史邦
雪のころろさくころ雪の雪 二柳
雪のころろさくころ雪の雪 千代
雪のころろさくころ雪の雪 千代
猫の雪跡かきていころろ

猫

二月

二月 花見と本はしらに二月廿 壽

おぼろ三日縁とろ二月廿 大元

おぼろ三日縁とろ二月廿 二柳

おぼろ三日縁とろ二月廿 青蘿

おぼろ三日縁とろ二月廿 大魯

おぼろ三日縁とろ二月廿 松元

二月廿 祝の息とこれぬ二月廿 兔土

お雷 祝雷お悔つとと申へし 玉井

お午 祝午や祝のふら松とて放 二柳

お午や大勢はく同日土 豊重

お午やちねに縁の鶴は声 蕪村

お午 いたつふ柿搗ておひん和 貴人

虫しもの力つひらひらひら今ね 杉風

経集 板紙とつゆや和の茶春時 正秀

ねと人思の事と紙子もあか 李由

一友に採ておきく和余和 李東

餅お 大は縁とまぬ佛のふれ 希南

膏 ともと和ふおつらめて香ひ方 捨石

くらねと八燈とほしとこの月 曉臺

光風はつ揚もまらんとこの月 大江丸

ともと豆の煮と白ひや掛月 史邦

我いふりくうてとらや掛月 芦角

糸の心のふやねとる月 春猪

涙とくそは清てととと掛月 梅貞

とらとけいあともはくふ掛月 希周

雪のまに竹とらとて掛月 壽

三月のまじくねくねも 也有

鶯 鶯おや塙の採木おの糞 徐寛

春友 春のおやんふいけのまは 知白

春日 春のおやんふいけのまは 杜若

まはれや雀の砂ほて 鬼貫

まはれや牡丹ふよて 晚翠

舞きて庵ふ出まは 園更

音 永とねやけら本吐らる音 野水

永とねやけらにて 素丸

永とねの西よきとる力 秋光

暎 暎とらして 浦田 知白

暎や物の糞ふふ浦つとる 古帆

暎とふいけと思ふぬねや 杜園

陽更 かげらや川のほとりの地より 龍草

かげら市位鼻血するの上 酒堂

陽を分けしおとの鳥ね 和泉

てらけくりや陽をねまらる 史邦

陽をにらうぬまはぬまらる 梨一

陽をねえとるやまのうねはと 蕉下

陽をねえとるやまのうねはと 其繼

陽をのりえて田のまは 曲翠

我思ひしれ陽をふらふらふ 白圖

入つてふ日といふのまは 芭蕉

いふやふらふれ兼い人のうけ 乙洲

いふやふらふれ兼い人のうけ 乱縁

枯葉おしきりてとるのま 蝶夢

うつろいふいふいふいふの水 園更

ひりくまえてりやまの水 青

養

暎

水溫

おのれさへほひあうく春の水 大江

種蒔

あぬすむはやの種蒔りかた 阿誰

種蒔

種蒔て隔る川 辨石

麻蒔

種蒔や属れかふあしし 民古

御

麻蒔やまき小蒔のうらなうら 曉雨

うこくももこえて畑蒔りか 去来

畑蒔や刀小入しとまらぬ 泉車

うこくや里の山畑蒔のほし 曉臺

畑蒔やおれまもこえてくれあふ 蕪村

山蒔や若麗の味いあけりうら 布舟

りやうと音と吹出す畑蒔り 呼丁

山蒔と小松のあけりか 洞木

山蒔のあしと若まこらうら 芭蕉

山蒔ついでまてうら本蒔り 牧童

出籠

焼

蒔

本蒔

携木

本蒔や本蒔れつものことふれ 會粘

食まや本蒔れつものことふれ 會粘

世の中やうこくなうらぬとけ 淳児

十本小五本うけのふ携木うら 杜宇

五梅やうぬえつら玉 芭蕉

五梅や小梅やうぬえつら玉 芭蕉

五梅やいそぬえつら玉 芭蕉

うらうらて薄五梅と成ふなり 曉臺

雪のまねくしなる様うれ 芭蕉

雪ふあて様うらうら様うら 桃隣

雪風よひうら様のさめりうら 野坡

雪うらうらも永うらうらうら 是水

谷のぬかまうらうら明て白梅 二桺

一山のまかぬあつらうら様うら 馬印

緒

卷

雪のうらたてぬし松のくぬ 紫重

あめて幾日ふさうそ松のふ 蘭更

よみわつぬのふかすうれた 青蘿

むらさき屋の小松やあまう 涼菟

てんどのくしめぬるふみうし 夏江

かけらよよまのふてやいし 遅望

いさくうなるふまのぬしれ 龍石

あまねや比賣の南つ 佳南

あまねや比賣の南つ 曉臺

あまねや比賣の南つ 蓼太

あまねや比賣の南つ 野坡

あまねや比賣の南つ 紅石

あまねや比賣の南つ 蝶友

あまねや比賣の南つ 羅人

あまねや比賣の南つ 羅人

あまねや比賣の南つ 壬代

嵐

物寄のちうふらうらうら 嵐雪

土瓜走り市よ二丁のこいけ 儿董

小松町の嵐をふたふらう 八江丸

小倉うし孫のあうらやよま 吞水

くらくしちちらぬやよま 杏林

せーふれんがせかたつらう 嵐雪

五加木 茶の壺よりぬるや五加木 芙蓉

面白きぬをこや月のうらた 虫兼

萩芽 萩の芽れをぬしぬしぬし 路通

芦芽 芦の芽や四五百とらう 羅

草芽 草の芽や四五百とらう 園女

蒲英 けりや芥生小糸のまひ 牧童

蒲英 けりや芥生小糸のまひ 牧童

た人日やまこしうて伸上り 上 雲郎

井志 為中やうふふ笑る芥の死 其日

美志 菜鳥のこねと歌をうたうれ 芭蕉

おのこふやふいぬのこもいふの縁 来山

ふのこれ小井ふくやく旭のぬ 東明

ふのこれや鳥さのたふしうし 子 毛純

ふのこれのこもくはるる教か 曉臺

菜のこもぬるや眠るや松のけ 遠巴

美志 かしらぬのこれもきり酒のれ 青蘿

美志 陸まのふれぬぬいし右に非 か 雨拍

いっしう音ふもぬるし煙のれ 京 和及

柱さるる人うしうしうる陸非 イ 涼苑

られうる日のかけしぬの煙 諸九

諸様を日かぶるしぬの煙 乙由

風流てふあさやふり 煙 入元

およくけしうまなれまきの煙非 蕪村

雨やこもりのふらうし煙非 千代

田代水のそもろぬかきも煙非 青蘿

雪圍やあかふむふと鳴煙 風律

やいふる陸まのぬれがす か 一笑

雀の家ひくもやうふり煙 流志

てふの節とらう中此れけけ非 芭蕉

てふのぬらうけうつや非のふし 園女

雪のふらうけうつやふてふれ か 土芳

ものいふてふもけりくぬ非 圃更

枝のそや一旬ケくぬ見非 京 蘭二

枝もろや可きとれぬいふら 京 大江丸

いへち中ふ吏るや田ふり 京 支考

蝶

蜂

虫

くふあふふふふふふふふふふふふふふ 愚心

陸より若生の水や切つて 曉臺

春后 尻声なふと鳴あふまはけ 鞍風

一折つて飛ぶふふふふふふふふ 二柵

海后 へつるふふふふふふふふふふ 大草

けさこれいふふふふふふふふ 大魯

夜の家の家極むけんふふふ 春幾

下して門内もまきくおもひふ 蕪村

ぬふふふふふふふふふふ 涼菟

引初 日のぞちやふふふふふふふ 方廣

引つてのふふふふふふふ 后覺

引鴨 引つてつふふふふふふふ 古杭

未拙

鳥歸 扱ふふふふふふふふふ 斗入

雲雀 砂川やまよふてぬくいろ 許六

ふろふふふふふふふふふ 惟然

やせ身ふふふふふふふふ 浪化

ふふふふふふふふふふ 南雨

枝の本けふふふふふふふ 北童

氷のふふふふふふふふ 北枝

炭釜の作向むふふふふ 乙由

吹風ふふふふふふふふ 風國

細まふふふふふふふふ 羅川

ちつちつちつちつちつちつ 如行

ふふふふふふふふふふ 櫛木

雄 叶と様ふふふふふふふ 榮枝

叶と様ふふふふふふふ 一保

ねのいさかすのふゆる船聲 千那
 とつとあつむのうらや船の声 吾仲
 大佛やうしろはひく船の声 蝶夢
 からことよそふ風有き一の声 二柳
 船寄てはは本成候しゆんや 穂守
 燕戸をひききこのひくい印 水南
 そふふふふと土よすし燕也 也有
 つまふまれのいぢちう燕うね 長水
 大和路けきもちうふも燕也 蕪村
 燕ついでにたりとるもあれ 空應
 燕いよねれまうれまあれ 岱青
 燕巢 秋のふじいあふ燕の巢 古帆
 呼まを 松風の尾ふうのふふも 以琴
 牡丹花の尾のふふも 三千風

燕

燕巢

呼まを

若船 若船の橋の一角ふたぬねり 才磨
 小船 流つよふ今舟とひ小あぢれ 爲有
 船波 船波のふんもつるれく 露言
 堤 堤が一のまつれ波う舟 大冠
 夕照やまのうらうら波舟 蘭更
 村のハ松のまつらう波うり 昆明
 あすふれりのふんもつるれく 惺和
 恰や三日の月くくふの波 由平
 恰のころくつる二下波 蘭更
 寄居虫 爪のふもつるれく 天垂
 海苔 おころハハ菌は食はての山 芭蕉
 海苔のうの赤泥まふるれく 尺艸
 春原 春原のうられと子 紫曉
 春原 竹のうらあつてあぢる原の角 行流

恰

寄居虫

海苔

春原

春原

歌

市中やるふらけり凡中 涼菟
夕のののうたそ凡中 才磨
切てやるふらけまやいのり 晴臺
凡中とらふ人安氣黒田 大岳
ふらけのののののののののの 蕪村

三月

二月

二月や清あるの流まうて 信徳

弥生

こころふく風や海生の水の音 東義

雑

雑志やふたのうらやふらけ月 前口

雑志の烈やある後の声 國々

雑の飯それるうた旭の歌 吾仲

雑の間まといれてうたは佛歌 瑛臺

松折とらふ雑の類はよ 蝶夢

すけける壁不のうらし紙船 雲生

殺よりむひらめとまへ海歌 其角

松風とらふ風一なる海下歌 轍士

小漁老とらふ海下の海は志水 二柳

出代

出代や人ほやの二日月 也有

出代や牛合息して小原迄 其角

出代の井戸は海き契う歌 大任

不妻

ふく病よつれかきまのふか 千那

志

ゆき雨のふらけとれ水 寄節

花

ゆいーとやむれあうの羽五槍 芭蕉

後もうれも花やうらむ六 介我

早もよ女まよものうらむ言化

花の雨朝風ほほろくうらむ 仙化

春の跡てなむこいふうらむ 立志

花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 三止
 生い又野草来ては後人ふの十 千那
 花成すは日教は汚すも花 去来
 花をよみあやうや小娘ひ 千梅
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 丈艸
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 北枝
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 路通
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 漁川
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 千梅
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 風睡
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 正秀
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 如驢
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 杉風
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 朱拙

傘さうりつゆもそとぬ法沙ハ 桃隣
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 苜蓿
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 去来
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 坐芽
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 李由
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 智月
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 嵐雪
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 卯七
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 虎通
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 一音
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 其用
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 松兒
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 大元
 花さうりつゆもそとぬ法沙ハ 史邦

梅

梅^{ツバキ} 折^ツて^て 飯^ツを^て せ^り たり^{たり} 山^庄
 白^き 梅^の 村^も あり^{あり} 其^角
 庭^く 梅^の 影^も あり^{あり} 尾^頭
 た^ら 梅^の 影^の 遺^形 也^也 千^那
 後^の 人^に 何^れ とも^も なく^{なく} 柳^五
 日^の 梅^の 影^も あり^{あり} 許^六
 つ^つ 梅^の 影^も あり^{あり} 一^洞
 大^井 の 梅^の 影^も あり^{あり} 本^導
 夏^の 梅^の 影^も あり^{あり} 李^由
 心^の 梅^の 影^も あり^{あり} 木^登
 大^名 の 梅^の 影^も あり^{あり} 汶^村
 い^け 梅^の 影^も あり^{あり} 曉^臺
 百^石 の 小^村 と 誰^じ とも^も なく^{なく} 許^六
 下^下 竹^阿

梅

梅

又^ふ 梅^の 影^も あり^{あり} 関^雲
 世^の 中^の 日^も あり^{あり} 夢^太
 老^木 と 人^の 梅^の 影^も あり^{あり} 松^元
 又^つ 梅^の 影^も あり^{あり} 千^四
 源^の 梅^の 影^も あり^{あり} 驥^道
 一^本 の 梅^の 影^も あり^{あり} 木^采
 梅^の 影^も あり^{あり} 枯^竹
 一^本 の 梅^の 影^も あり^{あり} 也^有
 旅^の 梅^の 影^も あり^{あり} 羅^城
 湖^雀
 希^因
 梅^の 影^も あり^{あり} 曲^翠
 梅^の 影^も あり^{あり} 荻^人
 青^羅

月よふらりし夜もあけの光 曉臺

戸のめしうれしあふく柳はふ 千代

梨花 那のいれまや昔のふか 波村

ふきやふかぬいころ梨の心 除風

てけ耳となくさきし梨を心 支考

おんふ社の歌やし 梨のよれ 也有

昔花 咲これてふらけつらんきつれ 稻丸

海棠 海棠のりうおつたれし眠り 普葉

海棠や咲くさきくも 模松 曉臺

本蓮花 雨うつしりしきりてめり 本蓮花 言露

薔蹄 心しきりしきりしきりし 文島

心しきりしきりしきりし 文島

心しきりしきりしきりし 文島

心しきりしきりしきりし 文島

藤

門よけりやありし 女 二柳

心よけりやありし 女 千那

洗のあつた花をいし 女 曉臺

昔の昔のさききりし 女 千代

まよふのさききりし 女 蓼太

蓮花

蓮花や柳の心よけりし 女 麦由

蓮花や華を咲かす 女 二柳

山文

山文や咲くさききりし 女 望翠

山文や咲くさききりし 女 蘭更

山文や咲くさききりし 女 惟中

山文や咲くさききりし 女 白空

山文や咲くさききりし 女 花洲

菖蒲

菖蒲の心よけりし 女 朋水

重

重なる心よけりし 女 支幽

くれうの向ふにむす草部 園女
 おまふうれむのまうや草部 諸人
 うつらうれむまき草部 園更
 おくふやん位うれむ草部 曉臺
 董吸うつむ草部 二榎
 ほやまふもし草部 松丸
 木鹿部 ゆふのこふもふ草部 芦文
 茶摘 日の園や茶ふふ草部 正秀
 わくまふもふ草部 何狂
 眼の下まふ草部 寒白
 青麦 青まふ草部 敏實
 苗代 苗代やうれむ草部 許六
 苗代やうれむ草部 柳居
 地 地のまふ草部 古帆

乃くむい地 芝まふ草部 一鳳
 帝元と地の生兼る地 有庸
 もの菓よまふ草部 古帆
 教草 もの菓やひまふ草部 園更
 野菓 わいの菓やむ草部 愚心
 野菓 野菓や林ふりまふ草部 沙明
 反逆 反りたあやうまふ草部 楓鹿
 春暮 くの羽のまふ草部 沾律
 居風呂のまふ草部 嵐竹
 黄葉やひまふ草部 如行
 行春 行まふ草部 惟然
 行まふ草部 風青
 行まふ草部 諸九
 行まふ草部 青蓮

浅見
 大嘗
 野水
 睡

夏

四月

白重

破る債かつらー白重
 嵐

夏衣

府屋の暖着白一衣り
 利生

衣之山ハ重と見ゆこれ
 乙由

衣之山ハ重と見ゆこれ
 雪芝

衣之山ハ重と見ゆこれ
 幸木

衣之山ハ重と見ゆこれ
 鬼貫

衣之山ハ重と見ゆこれ
 支考

衣之山ハ重と見ゆこれ
 嵐雪

衣之山ハ重と見ゆこれ
 露沾

衣之山ハ重と見ゆこれ
 嵐

衣之山ハ重と見ゆこれ
 刺更
 燕村

裕

ゆくふうそくして出する後、取 乙由

二日三日身のそひらぬる給事 十代

除夜

除ぬるや折のもけりしむく 未周

除ぬるてあふふふふ花のま 青蘿

除ぬるてあふふふふ花のま 捕芽

青蘆

うつくしひふふふのたか青茅 鬼七

不周よ入して風か 一青ここれ 馬肝

四月

うつくと四月の山や新船 竹平

望みちれてあふふふふの四月の 晴臺

望みちれてあふふふふの四月の 斗入

行月

うつくぬ花と好りけり月計 蘭更

大業歌

参系

州の由系の車とてのら 蕪村

突つふ夢のつひらる系計 圃更

縁佛

縁り色の系のふぬる小家計 蕪村

灌佛

灌仏やととすあら寺の児 其角

灌仏や我の系のと泣きとけり 毛純

佛生會

くまみ系の唐用くや仏生會 乙由

花柳堂

いろ／＼の朝のうつくや花柳堂

花柳堂とていふ古た湯佛 二柳

一夏

初瀬の一夏の病傷あらん 晴臺

夏花

夏よりのふふハ巻の一夏の花 向雄

夏花

夏よりのつらん牡丹のふふ花 二柳

夏書

ふふ／＼はの書のあふふ夏書 知義

夏書

夏書とていふや中流の一夏 知義

夏書の園のとつらつら甘んが 蕪村

月の月の夏の夏書のつらつら 晴臺

夏書や折のあふふのこま 二柳

いっしんいっしん人のまらふと守 貞徳

あまのつてまぬしうやふと守 芭蕉

あまのつてまぬしうやふと守 鬼貫

あまのつてまぬしうやふと守 牧童

あまのつてまぬしうやふと守 惟然

あまのつてまぬしうやふと守 萬年

あまのつてまぬしうやふと守 壽仙

あまのつてまぬしうやふと守 千那

あまのつてまぬしうやふと守 山店

あまのつてまぬしうやふと守 千巻

あまのつてまぬしうやふと守 酒堂

あまのつてまぬしうやふと守 北枝

あまのつてまぬしうやふと守 野坡

あまのつてまぬしうやふと守 千梅

あまのつてまぬしうやふと守 丈艸

あまのつてまぬしうやふと守 諷竹

あまのつてまぬしうやふと守 希周

あまのつてまぬしうやふと守 嵐雪

あまのつてまぬしうやふと守 浪化

あまのつてまぬしうやふと守 言水

あまのつてまぬしうやふと守 杉風

あまのつてまぬしうやふと守 丈艸

あまのつてまぬしうやふと守 信水

あまのつてまぬしうやふと守 瓢水

あまのつてまぬしうやふと守 権良

あまのつてまぬしうやふと守 一青

あまのつてまぬしうやふと守 千代

在敷

夢天

櫻雛

隈子

二柳

青蓮

儿董

圃更

夢太

蕪村

為重

諷竹

千代

希因

支考

牡丹

野明

鞭石

葉文

海棠

汶村

嵐雪

釣壺

風國

蕪村

青蘿

千代

大丸

榎妖

大丸

大丸

牡丹

大丸

大丸

大丸

巻五

いづれにのまゝなれりけり

支考

わかれは息なかりけり

木尊

たけのこははたき

青蓮

けしきいづれに

二柳

あはれにせりけり

臥床

巻六

足元の路はあやう

沾徳

あはれにせりけり

去来

あはれにせりけり

曉臺

巻七

あはれにせりけり

風騷

あはれにせりけり

蕪村

あはれにせりけり

千代

巻八

あはれにせりけり

遊方

あはれにせりけり

大州

巻九

あはれにせりけり

野坡

あはれにせりけり

風高

あはれにせりけり

飄水

巻十

あはれにせりけり

也有

あはれにせりけり

紅雪

あはれにせりけり

鬼貫

あはれにせりけり

嵐竹

あはれにせりけり

蕪村

あはれにせりけり

蘭更

あはれにせりけり

白尾

あはれにせりけり

土著

あはれにせりけり

児董

あはれにせりけり

曉臺

山よそへて小舟漕りやうか 蕪村

あなましくねとよ深に有るぬ 几董

晩鐘よまもちぬらうらな 千代

おた 卯の毛は寝れまよもきぬひら 秋の坊

ふゆひておたまぬぬかふる 支考

卯のまひのまをいふらう鳥 希因

卯まよむるの能きまの白か 几董

卯まひ目と持ふふくまうらう 千代

卯まのこるふくまの産まか 蕪村

横賞 卯たの草浪よらるのひ田那 青巖

系橋 三々橋やふくま鳥のふひひし 一路

紫橋や橋のむらよ木志のふら 里右

紫橋よひふもことる你心か 方廣

うれふふよ系さうらふ加 嵐竹

相の冬 さいしやう旭のいろやら瓶 来山

尾毛もちちいとりれも相のふ 乙由

相の本やまもくへも思ひぬよ 才磨

雷の形くわりのぬ相のむ 史邦

こししせひらうらもまぬ相の心 也有

金銀お わふかや推つらふ小田の直 二柳

多しうてせふらしうらおまを 風律

おまの 羽まの雨のふ鳥やふらうら 遊林

とまを ちま紫まへ風よらやうぬまか 麦浪

玉巻鳥 ぶすひしうらふもきぬおこまか 麦水

蚊 守婦としてまねと扱もつた人 二柳

蚊のまもをきかひらぬ 偶 陣

蚊帳 ひらぬぬの蚊帳も田隅づはら 来山

胸いましますししやの内 正木

乃直て故帳冷しる夕暮 好

世あいにふの何う故帳の中 謙山

青ねしと持入故帳のつら 其角

後いごの故帳のおめめ 直生

不ちくともその言さく故帳 李東

夕の日のむせては元く故帳 希因

鴉の孫つらぬ宿のこやうれ 儿董

夕の日のいつふえさるるや 竹阿

故柱や春のたれあふらう 曉臺

雨蛙 松めよとくさ柱のゆ 埜 芭蕉

暮 ひとつとあふたはらぐり暮 都雀

新茶 おしとたやうこあうひれう 曲翠

山門ともしと、新茶の風うら 雪壽

花よ名のつておこしと新茶 園女

初茶 花ものいろ形して初茶は 吾仲

花よりも茶よりも花は初茶 昨震

初茶 初茶とこうと花とこうと 知誰

新茶 清くぬるの花や一枚 宗瑞

初茶 めるれいぬらんものも花は 青雅

初茶 終きいふぬらんいと破はらん 芭蕉

初茶 羨ひともえんらぬやあうら 岩翁

初茶 花のふくあつたのふあつと 大江丸

初茶 卯をよとれもあまや終き 二柳

五月

青 まつれうらふははれ五月廿 潤川

かゝる夕風京の責る五月北

五日北すも花北のつら北ち北ち北桃北

雪北の五條北を過北る北が北乙北由北

あやめ軒北茶北の影北を北け北木北枝北

山風北の系北が北ち北ち北の北希北因北

言北由北鶴北の北言北水北

う北つ北く北結北せ北て北結北外北萬北三北

鶴北鳴北家北ま北つ北ち北青北流北

高北浦北夢北い北ら北ら北の北桃北隣北

我北ら北の北草北ま北ま北い北ち北や北り北季北吟北

高北浦北妻北の北ち北ま北ま北い北ち北や北り北乙北由北

高北浦北の北ち北ま北ま北い北ち北や北り北荷北子北

我北ら北の北ち北ま北ま北い北ち北や北り北諸北九北

昔北の北ち北ま北ま北い北ち北や北り北關北更北

競馬 鞍北を北れ北よ北み北ま北う北く北入北る北 几北董北

竹北解北竹北 竹北解北て北え北は北な北ら北う北月北丸北 曉北塵北

葛北蒲北 比北人北と北小北舟北を北か北く北あ北ら北か北 梅北負北

岸 ち北ら北の北ち北ま北ま北い北ち北や北り北千北代北

海北小 ち北ら北の北ち北ま北ま北い北ち北や北り北希北因北

藤北花 ち北ら北の北ち北ま北ま北い北ち北や北り北加北生北

川北骨 ち北ら北の北ち北ま北ま北い北ち北や北り北旭北老北

川北骨 ち北ら北の北ち北ま北ま北い北ち北や北り北几北董北

川北骨 ち北ら北の北ち北ま北ま北い北ち北や北り北隨北友北

川北骨 ち北ら北の北ち北ま北ま北い北ち北や北り北素北堂北

川北骨 ち北ら北の北ち北ま北ま北い北ち北や北り北

川北骨 ち北ら北の北ち北ま北ま北い北ち北や北り北

川北骨 ち北ら北の北ち北ま北ま北い北ち北や北り北

川北骨 ち北ら北の北ち北ま北ま北い北ち北や北り北

川北骨 ち北ら北の北ち北ま北ま北い北ち北や北り北

草葉 引不^しふ^しに^しれ^しを^し一^しの^し草^し 尚白

草花 隠^しぬ^しや^し口^しふ^しさ^しの^し花^しの^し花^し 乙由

草花 若^しの^し花^し松^しと^しは^しく^しれ^し木^しの^し部^し 馬印

草花 花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 山店

草花 花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 千代

草花 赤^しと^しも^し淋^しし^しう^しい^しま^し一^した^しの^し花^し 文雅

草花 夏^しつ^しり^して^しき^し工^し経^しけ^しの^し花^しが^し 大江

草花 己^しう^し花^しふ^し花^しを^しせ^して^し後^し一^し也^し 此原

草花 花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 芭蕉

草花 花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 嵐雪

草花 花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 東志

草花 花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 希因

草花 花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 旭芳

草花 花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 旭芳

夏

花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 千那

花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 支考

花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 素繪

花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 斜筆

花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 朱迪

花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 史邦

花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 配力

花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 鬼貫

花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 此筋

花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 杜宇

花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 蕪村

花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 大誓

花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 重頼

花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 重頼

花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^しの^し花^し 重頼

たすく小萩あしてつるまが部 可董
持よのうへは地まゝのな神部 布介

事

筆か折る音ひくいふる歌 康茂
筆は進ひぬれける板のれ 探芝
筆のゆり喧の心まじし 支考
筆やここの日のうつつたえさら 千代

若井

若井よまのころこや四十雀 風國
根がよるあつら音いこみ 樽良
若井小ねふいそこのあけが 大江丸

青森

こも梅もころつ鶴のふりいふ 杜旭
枕把 人あつやまの松把うふ山鳥 楚常

樽花

そのふくみ樽よふのふ山鳥部 芭蕉
うすうのころもつる樽が 乙由
後欄牙 寺の我古菓よつるまきもつる 支考

藤

揚よまもつるくやまのつら部 乙由
たらくねやふられぬの土のうら 春畑

抽

一枝はしらひさるるむ持ね 蓼天
松栢志 まるるね雨のつらやむ松栢 重厚

栗

雷よ門つれりくうのこれ 梅貴
籠籠よあ音とーくれあ 乙由

持

籠

田植 抽つけーねと日月の門田のね 青蘿
木の枝のほを押しとて田植部 古道

あまののまよこしてあつら田植部 支考
田の軒の田植やあつらひら半 梅子

湖のあまこむけて田うへうね 児童
あひく小教つる合て田植部 乙由

田種 次の田種... 菅文

田種... 千代

早乙女... 釣壺

早乙女... 希因

早苗... 三止

早苗... 泥足

田種... 蓼太

青田... 些榮

青田... 青山

五月雨... 無倫

五月雨... 露川

五月雨... 支考

五月雨... 温故

五月雨... 園女

五月雨... 如山

五月雨... 文章

五月雨... 泉袋

五月雨... 蕪村

五月雨... 希因

五月雨... 蓼太

五月雨... 五明

五月雨... 市巷

五月雨... 芭蕉

五月晴... 芭蕉

五月晴... 野明

五月晴... 浪化

梅雨 白昼もやまらぬ雨の音の中 不王

入梅も一雨の音の響く 都友

水鶏 ぬる風を響かす 弘氏

くひおろおろぬる音 北枝

ふらふらと人なまらぬ音 伯之

日くしくおろおろ音 蘭更

かきかきと音おろおろ音 青蘿

老翁 音やたたりけり枝の音 溜川

音言 音の音か入てた音 鬼貫

羽振者 たつたとの羽の音に池の鴨 一胤

浮葉 浮くかきかきと音の音 蘭更

池の音よたたりぬる音 嘯山

あやあやとけけ音の音 窓巴

松竹 つれづれやたれぬ音の音 行山

いせねねや音のすむ音の風 馬佛

里川や音とつれづれ音 来山

ふたふたの音とつれづれ音 去来

音無 音なきこと音の音の音 史明

音なきこと音の音の音 曉臺

音 草の音の音の音の音 芭蕉

の音の音の音の音の音 蘭子

極本の音の音の音の音 野徑

田の音の音の音の音 萬宇

音の音の音の音の音 芦本

音の音の音の音の音 青峨

音の音の音の音の音 文章

音の音の音の音の音 正香

音の音の音の音の音 也有

音の音の音の音の音

花んてり筋力ねききこれ 衰

道ふ人よいらりぬきききき 大江

月のおのれおふりつるきき 青羅

燈灯よふりつるきき 大江丸

さうのねんねんきききき 支考

端平けおのし角のききき 蕪村

三日月の指まきききき 儿董

たのききききききき 曉臺

子こふりつるききき 重厚

子こふりつるききき 大空

枕の本まきききき 蓼太

膝まきききききき 西吟

雲まきききききき 百明

龍まきききききき 河鯨

雁おろしんのとをききき 曉臺

ちりちりききききき 蕪村

友の月やかんひくききき 牧童

そまききききききき 方廣

いよせきききききき 野風

いよせきききききき 真角

かききききききき 圃更

かききききききき 曉臺

子かきききききき 風雪

かききききききき 太抵

宿まきききききき 十州

かききききききき 菅原

かききききききき 桃隣

かききききききき 紫曉

筆

子

毛虫

重

龍

羽虫

夏虫

大取虫

海蟻

懸射

火車

麻子

五竹より西にぬるる所 羅城
草山やうらうらうらうら 五明

六月

六月や 暑きをたぐらし山 芭蕉

六月や 風さううれてぬく 鬼貫

六月の 雨もつ門や 升一尾 虚谷

六月や 夕暮さうらう 三井れい子 蓼太

水月 六月や 朝あけも 塩孫 芭蕉

六月や 夕暮さうらう 舟日侍 奚魚

氷室 六月の いかんせきう 氷中むち 言水

坂や 小ねる 那はきし 氷室ち 二柳

ひびくも 遠く 石まへ 海ぬへし 大紅丸

氷水 又よ 雨ん 跡あ 石の 御溝水 二柳

一夜酒 夏の 酒を 飲めば 一夜酒 盤水

高き痛 ぬきお ぬきお ぬきお 二指 沾湖

田の まに 遊ばし して 土 漬 奚魚

梅香 五月 人 命 草 花 香 風 惹 蕪村

月夜 月 夜 や 人 命 草 花 香 風 惹 曉臺

肝後 肝 後 や 行 け ね ね ね ね 三圃

茅菰 茅 菰 や 行 け ね ね ね ね 蕪村

絲菜 後 行 け ね ね ね ね 言水

風雲 風 雲 や 行 け ね ね ね ね 蕪村

行も 行 け ね ね ね ね 窓巴

青嵐 青 嵐 や 行 け ね ね ね ね 芭蕉

村也 村 也 や 行 け ね ね ね ね 史邦

重厚

蘭子 隠しつれとらと人土用丁 去来

湖の風とみどり土用 羅城

出 ちりねとつらも相柳 大江元

暑 祖橋の径とよねのあつと 昌嘉

石のいしとつらとねぬまが 杖風

後史のころあつとよる暑 時中

まじりまじりまじり暑 氷巻

白砂と葎とひくあつと 暹望

暑とこほし柳の本つらとむか 素堂

村雨の本穢とつらとあつと 其角

よこたはたまのまじりまじり 二柳

涼とちと柳とつらとあつと 支考

涼風とつらと田の人のまじり 許六

涼とちと柳のまじりとあつと 流々

涼

涼とちと柳とつらとあつと 蓼太

月涼とちとあつとあつと 也有

涼とちと柳とつらとあつと 千代

川風と柳とつらとあつと 芭蕉

ぬけとちと涼のちと柳の月 文叶

暑あつと川辺とちと魚のけ 蘭子

可憐とあつとあつとあつと 去来

まじりまじりあつとあつと 宗次

あつとあつとあつとあつと 一珍

あつとあつとあつとあつと 園女

静かあつとあつとあつと 其角

あつとあつとあつとあつと 李下

あつとあつとあつとあつと 胤禪

あつとあつとあつとあつと 乙田

柳涼

白雨

園女
 山店
 昌房
 蛙足
 蘭舟
 鞞風
 利牛
 李由
 徐宙
 馬印
 白仙
 雲風
 宗比
 蓼太

清水

泉

千代
 蕪村
 方廣
 芭蕉
 也
 許六
 鬼貫
 八橋
 路徑
 范宇
 史邦
 去来
 馬印

青

葉のそよ草もじつらる友の月 諸九

芒種てきつふせや夏の月 作去

あふささめさきとて夏の月 團更

夏の月いせれとのれいし 大任丸

扇

言やうや白紙扇の風あうり 良品

懸も扇うらさきとらうし 杉風

扱ありれのあふささめが 几董

團扇

うたねささの音や夜の門 太祇

日の影と揮えてねささめ 團更

まら秋とささめささめささめ 涼菟

帷子

けりや草もさせん風う吹 杜若

行

行さうさきとらや旅人 諸九

行掛

帯佐の系中ささめ行掛 嵐雲

抱笈

抱笈や夏の味はも味は後 也有

竹笈

うらささの名ゆたさ竹笈 希因

簞

笈控より風ささめささめ 蕪村

草

草あはささめささめささめ

水碓

水碓のせきささめささめ

石太

石太のよささめささめ 其角

風扇

風扇のよささめささめ 進歩

蓮

蓮二本ささめささめ 玄梅

枝ねささめささめささめ 三平丸

蓮二本ささめささめ 白ゆ

ささめささめささめささめ 曉堂

ささめささめささめささめ 大魯

花はつれつ不^二月^一のま^二ね^一 園更

蒲穂 着れや又^二花^一のぬい^二て^一 可^二圓^一

夕^二光^一の^二影^一は^二夕^一の^二影^一 九^二乙^一

色蕉 百^二子^一の^二影^一は^二夕^一の^二影^一

何中 百^二子^一の^二影^一は^二夕^一の^二影^一

二柳 百^二子^一の^二影^一は^二夕^一の^二影^一

大江丸 百^二子^一の^二影^一は^二夕^一の^二影^一

馬印 百^二子^一の^二影^一は^二夕^一の^二影^一

嵐竹 百^二子^一の^二影^一は^二夕^一の^二影^一

惟然 百^二子^一の^二影^一は^二夕^一の^二影^一

驥道 百^二子^一の^二影^一は^二夕^一の^二影^一

等船 百^二子^一の^二影^一は^二夕^一の^二影^一

紫暁 百^二子^一の^二影^一は^二夕^一の^二影^一

薄む 丹波路^二の^一ま^二ね^一 園更

麻 丹波路^二の^一ま^二ね^一 園更

持麻^二の^一ま^二ね^一 園更

浪化 丹波路^二の^一ま^二ね^一 園更

色蕉 丹波路^二の^一ま^二ね^一 園更

時堂 丹波路^二の^一ま^二ね^一 園更

其村 丹波路^二の^一ま^二ね^一 園更

涼菴 丹波路^二の^一ま^二ね^一 園更

色蕉 丹波路^二の^一ま^二ね^一 園更

希因 丹波路^二の^一ま^二ね^一 園更

尚白 丹波路^二の^一ま^二ね^一 園更

其角 丹波路^二の^一ま^二ね^一 園更

鬼貫 丹波路^二の^一ま^二ね^一 園更

秋の音しつとや風のやうな合 紅石
 兼ねや二とらとて風の音の 孤山
 山風の吹きまじりたる風の音の 荻人
 相の本のそらけりや煙れぬ 荻人
 との葉のまじりたる風の音 呂物
 松風の吹きまじりたる風の音 千代
 川うらやみおとつた音し 杜若
 扱られてもうた今も葉の秋 此筋
 と白月や細よほとむねの秋 從音
 けりあやこしとこよねのたけ 二柳
 秋とて 萬代の輪のこら 汶村
 夜とて 星のまや 除風

河津

秋道

秋

七月

五秋

ひろしと木葉初て秋と立 鬼貫
 秋とて 露のまじりたる風の音 浪化
 秋とて 風の吹きまじりたる風の音 北枝
 秋とて 露のまじりたる風の音 角上
 秋とて 露のまじりたる風の音 尚白
 秋とて 露のまじりたる風の音 也者
 秋とて 露のまじりたる風の音 二柳
 秋とて 露のまじりたる風の音 児童
 秋とて 露のまじりたる風の音 路捷
 秋とて 露のまじりたる風の音 蓼太

秋

秋や枝よふくふく雨 毛統
 秋や親よくおに雨カカ 天
 秋やわらわら早のいり 二
 秋やなまていりた松元 松元
 夕やすすき川の流れ 錢庄
 夕や戸はまゝおきり 前口
 夕やもみ川ももみ車 嵐雪
 うねうね青夕や市街 遠雅
 せふれていろはさうやう 燕下
 酒つとねと海の心 去来
 早合 雲のたれおとろ神と不 正 青羅
 早合のそと陸やうはまきり 涼菟
 早合のひまの尾のそとれね 几童
 備への敷ひらけて早合 園女

机洗 夕や机の早あけいあけ 吉女
 鷺橋 都やも梅のほしハねとて 大江宛
 天の川 横とよまのゆやうた川 此筋
 大切おねのそとつれ川 其角
 天れ川つら本家のそと外 蘭更
 夕やゆりたれおせ天の川 珈涼
 夕月 夕つらとさももも盛つたね 卓袋
 盆舟 盆のたれとつと門はくはる 野坡
 秋は似し海濱のそと也盆舟 青推
 夕のそと柳の下れとあり 如七
 秋のまゝとつらと墓の丸た 道
 縄系 夕つらとつらとつらと縄系
 侍つらとつらとつらと縄系 卓袋
 縄系とつらとつらとつらと 泥足

野坡

野坡

野坡

野坡

摩著

野坡

送大

野坡

再叙

野坡

灯籠

野坡

切

野坡

燈

野坡

扇

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

燈

野坡

櫻

幸崎の石の殿とありし中火部、紫香
 むかしは枝交成る角力より 芭蕉
 面影けはものうらたつ角力 春幾
 下帯いんかきもさる角力 許六
 角力より後まつさるたの吉 本導
 山陰のこのまゝりしとれ 盛弘
 此の角力入の思用ふありし 六合
 平武の角力まゝいんかきつ 大正丸
 昔もさぬ元まきして秋あし 指華
 指まきまきしめり秋のつづき 支考
 まぬ紫まきしやあまのり上埃 北枝
 初り雪いりしてめりあまのり 千代
 秋もやくは後居りたるる角力 乙由
 ありし雪もききり栗のいり 芭蕉

雲

功鳥

秋風

鴉の尾ぶつれりありし 荆口
 身ま入りし入振りし秋の風 芭蕉
 之根の二葉まきりや秋の風 素覽
 流抄の個なこころや秋の風 千那
 川音やきり心ぬき秋の風 從吉
 生るをかぬか押つけ秋の風 志井
 秋風やこれ眼のこころ解縁堂 風律
 春の根やかんとつら秋の風 凡兆
 さみしきやるなむかしの秋の風 波村
 そろくしと西風さるる秋の風 陽和
 寝よひ道はこころ秋のこせ 如夢
 ほそ縁のまきのほそこり秋の風 大正
 秋風や丁奥うけさる後庭 無村
 一こころをぬき秋のこせ 青羅

秋雨

秋風や巻ふさうくもたれ 曉臺

秋の心骨まきしし 湯島

秋の心郭の左のさうらうら 孤念

菜島の一徑ひや秋のらめ 李由

露

朝つゆや籠のうふふとく 吹峰

白き露のあつちあつちとあふる 儿圭

白き露や露のくくふつとく 蕪村

大粒よとあつちあつちの乳 青羅

秋の心骨まきしし 大江丸

雪

沈柱の并ふや雪のひいひい 北枝

雪うらぬ中のちちや雪のね 卓夫

雪うらぬやふか雪のくく 毛純

雪川やあはは入雪の中 蘭更

雑妻

雪うらぬのいとしとあつちあつち 嵐青

橋つらぬのいとしとあつちあつち 大葉

橋つらぬのいとしとあつちあつち 洞梨

橋つらぬのいとしとあつちあつち 魯町

橋つらぬのいとしとあつちあつち 一露

橋つらぬのいとしとあつちあつち 舎羅

橋つらぬのいとしとあつちあつち 史邦

橋つらぬのいとしとあつちあつち 千代

橋つらぬのいとしとあつちあつち 吾仲

橋つらぬのいとしとあつちあつち 挑妹

橋つらぬのいとしとあつちあつち 道雀

橋つらぬのいとしとあつちあつち 涼菴

橋つらぬのいとしとあつちあつち 馬耳

橋つらぬのいとしとあつちあつち 安求

橋つらぬのいとしとあつちあつち 野直

雑妻

雑妻

雑妻

雑妻

雑妻

あつた... 希因

あつた... 乙由

あつた... 曉堂

あつた... 青蘂

秋海棠... 香藪

栝樓... 露川

ひた目のうひふくれ... 琶丹

はげば... 葉葉

あつた... 芭蕉

蘭... 蘭二

あつた... 萬乎

あつた... 青羅

あつた... 毒

あつた... 昌房

あつた... 其槽

あつた... 北枝

あつた... 玄梅

あつた... 去来

あつた... 諸九

あつた... 蓼太

あつた... 二柳

あつた... 石蘭

あつた... 理玉

あつた... 二柳

あつた... 路着

あつた... 有書

野菊

常ふとたむけまふく竹のむ 風國
ゆく風の世もれくも深井 柳妻
たらしらる人どよふ秋雨井 杜宇

萩

多れなや二葉入瓶小萩のむ 専明
水あつや赤鴨の歌く萩下 園更
白萩やいよひのるを愛初 音鑑

萩

あやふふつけてまはは萩 鬼貫
萩垣守はは女まきここのれる 黄唇
風の音萩こゝもは萩いん 大江

萩

萩海入ふ入して萩のいゑ 斗入
萩の日はおもしろい萩のいゑ 蓼太
あれとてきふつらるる 芭蕉

萩

いそぎ風のむくしきうね 休計
あつらふらふらふらとる 鬼貫

月夜まゝかみあつてまゝ 希因

きくはれいそぎ風ふくまゝね 二柳

う言としくまうとるまゝね 曉臺

あつらふらふらふらとるまゝ 几董

一のふらまきめまゝふらるる 園更

むくくとむくくとまゝたむ 盛弘

むくくとむくくとまゝたむ 萬子

秋の日は萩のむの村尾まゝね 青蘿

夕潮あは尾をふらうれり 祐昌

餘のまゝり揺まゝらつら 乙由

は切のむくくとまゝたむ 素寛

義仲や舟のらむまゝまゝら 泊船

福くまりの車も海へまゝのまゝ 水谷
山ちやんひまゝまゝら 仙化

稻葉 忍^り代^りい^くん^んと^ぬい^ふも^の一^笑

桐花 異^とも^もの^さつ^りけ^んの^を游^力

の^てい^はな^を持^ちい^らぬ^る露^川

早稲 早^稲の^まや^時の^まの^人さ^入曲^翠

又^は稲^刈や^露の^田に^二香^草露^川

夕^られ^や子^鶴た^ちの^ひく^んす^す松^鶴

子^鶴の^まや^時の^まの^人さ^入支^考

り^んち^門田^の子^鶴と^和つ^り之^道

鹿^幸 窮^ひは^極あ^はせ^りの^ま史^邦

や^り持^の秋^やふ^けの^ま支^考

露^ま 露^まや^月う^けお^ての^ま呂^曉

あ^まの^まの^まと^清く^おの^ま團^更

風^仙 雅^りの^眼の^やす^まや^風仙^の井^雨

西^凡 猪^の鼻^くす^つ入^る西^凡の^外夕^七

露の後の色よ^いち^り西^凡の^外梨^旭

芋^蓋 露^まや^月う^けお^ての^ま露^川

芋^草 い^もひ^くや^夜の^まを^ひな^る水^平山^川

一^葉 又^はの^まの^まの^まの^ま大^江丸

相^の葉^はあ^らて^も下^よ度^の鬼^貫

な^つら^うと^一葉^のち^や松^{の上}有^収

暁^のま^まと^中の^ま一^葉ふ^り蓼^太

色^蕉 色^蕉の^まと^中の^ま一^葉ふ^り芭^蕉

柳^ちの^まや^まの^まの^ま土^芳

壺^中 壺^中の^まと^中の^ま一^葉ふ^り壺^中

大^江丸 大^江丸^のま^と中^のま^と中^のま^と中^のま

乙^由 乙^由の^まと^中の^ま一^葉ふ^り乙^由

知^足 知^足の^まと^中の^ま一^葉ふ^り知^足

曉^堂 曉^堂の^まと^中の^ま一^葉ふ^り曉^堂

乙^由 乙^由の^まと^中の^ま一^葉ふ^り乙^由

虫

二月月の用のいづるの木樨の 希因
 灯のいづるのいづるの日枝の山 穂葉
 赤輝のいづるのいづるのおぢの 壺中
 古の音のおぢのいづるの流の中 園女
 うのいづるのいづるのいづるのおぢの虫 文鳥
 月消のいづるのいづるのいづるのおぢの 圃更
 雲のいづるのいづるのいづるのおぢの 青蘿
 雲のいづるのいづるのいづるのおぢの 文竹
 菴のいづるのいづるのいづるのおぢの 乙由
 雲のいづるのいづるのいづるのおぢの 雲鈴
 音のいづるのいづるのいづるのおぢの 感字
 程のいづるのいづるのいづるのおぢの 荻人
 ののいづるのいづるのいづるのおぢの 除風

春

今のいづるのいづるのいづるのおぢの 蓼太
 居のいづるのいづるのいづるのおぢの 希因
 寺のいづるのいづるのいづるのおぢの 二柳
 軍のいづるのいづるのいづるのおぢの 青羅
 後のいづるのいづるのいづるのおぢの 木朶
 後のいづるのいづるのいづるのおぢの 千代
 このいづるのいづるのいづるのおぢの 孤屋
 陣のいづるのいづるのいづるのおぢの 羅城
 後のいづるのいづるのいづるのおぢの 惟然
 めのいづるのいづるのいづるのおぢの 諸九
 いのいづるのいづるのいづるのおぢの 圃更
 ねのいづるのいづるのいづるのおぢの 車来
 後のいづるのいづるのいづるのおぢの 桃咲
 後のいづるのいづるのいづるのおぢの 雪芝

野

馬

松

鈴

鈴也や雨は千枝のやむらひ 二柳

鈴也のふちをくしふれば 曉臺

僅織 こころのねがひをこころにまかせ 千明

こころのねがひをこころにまかせ 四睡

義忠 こころのねがひをこころにまかせ 色薫

冬 こころのねがひをこころにまかせ 伝水

川ありてくさくさはにひらき 野徑

刈りて植ふはつたのきかぬ 其由

近則 湯まきとて一葉のねがひ 麦光

秋板 此の葉は板のゆき夕月夜 野徑

秋蠅 秋の蠅たむし居るをこころに 波舟

蠅たむし居るをこころに 曉臺

秋涼 秋のこころのねがひをこころに 青羅

茶室のなまこころの秋の蝶 支考

隱吟 酒のまよふねんがのまよ 古帆

遠山やとんつりはいつる 秋庭

桐 桐や色もこころに 墓の松 蝶夢

桐や色もこころに 蝶夢

秋蝶 秋の蝶のねがひをこころに 示蜂

秋の蝶のねがひをこころに 示蜂

声まきししはるまきし 秋の蝶 曉臺

声まきししはるまきし 秋の蝶 曉臺

八月

八朔 八朔の酒の利さるねますか 許不

八朔の酒の利さるねますか 許不

田西 田西はつた田西の田つた 白雄

被屋 被屋はつた秋のひるの被屋 木導

放生會 山花や 義者をつけて放生會 乙由

放生會花ハ舟にキミカ乗る者あり

弱匠 弱匠の道場ハナリ 正秀

弱実 系ヨシと云ふれ弱実のりうし 浪化

いく説のまひやこね時ノ海 太祇

待宵 待宵の月やハいづるまき 正秀

待宵やハおまをさハいづる松 希因

待宵やハおまの命ハいづるものハ原松

待宵やハ縁と時ハいづる一板 二柳

名月 名月やハいづる下る瀬田ノにシ如元

名月やハおまハいづるおまハいづるハ潮春

名月や里の匂ハいづるまハいづる木枝

名月やハいづるいづるのりハ言角

名月やハいづるいづるの縁ハ言水

名月やハいづるいづるの海ハ去来

名月やハ照るもハいづるまハいづるハ芦本

名月やハ松の位ハいづるあハいづるハ雨卷

名月やハ揺れハいづるおハいづるハ乙由

名月やハ義のかハいづるおハいづるハ南盛

名月やハ花ハいづるおハいづるハ園女

名月やハおハいづるいづるのハ怒風

名月やハ人ハいづるおハいづるハ千代

名月やハいづるいづるのハ嵐雪

名月 仕合ハいづるのハいづるのハ嵐雪

名月やハいづるいづるのハ青蓮

我門ハいづるいづるのハ土著

名月やハいづるいづるのハ守武

名月 名月やハいづるいづるのハ守武

月と松とある宮に遊ばす 酒紅

おぼろの秋の夕暮れ月とふい 儿遊

月見 燈籠の光と夜更の月とふい 洞梨

寺の塔と塔の影の月とふい 芭蕉

酒宴の舟漕と月とふい 正秀

新月 秋月やそらふいふかこえ 會羅

雨月 冬月の夜更と月とふい 千梅

家々お月の中をまの音 来山

十夜 月影の波の風と月とふい 千梅

いさよひの月引と月とふい 宇鹿

十の夜や宮の月と月とふい 儿董

言月 二月やすく指の袖のまおのり 十夫

秋のやまの葉と月とふい 杉風

月と月と月と月と月とふい 桃隣

月

蜀黍の葉と月とふい 曉臺

井戸の汲みと月とふい 仙行

擬の本のそとと月とふい 鬼貫

そのや平のいとと月とふい 元昌

いづの松と月とふい 春水

香焚て我と月とふい 海棠

月と月と月と月とふい 近之

新炊上月のあつりのまをけ 青蘿

風と月と月と月とふい 晴臺

志つしと月と月と月とふい 土芳

村のよれきて入るる月と月とふい 大江

まよも本と月と月と月とふい 尚白

秋の夜や月と月と月とふい 斗入

かぶとと月と月と月とふい 露川

無一ふものもいれぬ月夜が 松尾

独の森よりくもる夜の月 去来

月代や雀ごまつく寂の中 圓鹿

月夜 世なき人よひひぐり星月夜 雨聴

初夜 初夜やそよ風のくろくして 夢太

秋暮 死もせぬ旅原のそよ風の夜 芭蕉

深きい橋うつりてし秋のくれ 乙由

大なるおる庭ひとり秋のくれ 角上

しのつゆぬ人そらうたふ静かな 乙由

秋ぬまえせと平秋の秋のくれ 雲鼓

秋のくれ鐘の音ふも廿日は 千梅

折まぬ酒うれやいん秋のれ 野坡

日あたらやまぬさうつく秋のれ 正秀

料なく巫女と惚く秋のれ 言水

夕ぐれハ持とカキ寺れあは 風國

竹まきあき火くり秋のくれ 几蓮

柱まは心もよう秋のくれ 青羅

秋夕 居風音ふ味つく秋のゆゑお 水魚

あき 産つたやや暖ゆるおきお 正秀

ひるさか風吹のそよのおきお 支考

かこひよ藤てまうらおきお 枳色

松人と持木よ麻るおきお 大竹

おそいりまよらうらのおきお 青羅

川煙の二ツギーたおきお 也有

木花よと形身つらるおきお 風麦

指き おきおけらこの月夜やまの 鬼貫

朝そよ中瀬まはむいふ懐 由仙

夕ぐれのみまじ市に雲の影 大江丸

机き

ふりまて机きたおの柱うれ 蘭更

樹々

やまをこゝろのむし梢、ふゆ 風

やまを——早稲のひつらつら、ま 野童

秋お

秋のおやまをふりれとまき、 松泊

永お

永のまぬおも水、様ひ、ま 北枝

暴風

暴風のまをり、まのま、 塵生

まのまのまをり、なる暴風、 句空

秋風のまをり、まのま、 秋航

はう、まのまをり、まのま、 希因

月、まのまをり、まのま、 也有

まのまのまをり、まのま、 青蘊

おのまをり、まのま、 燕村

芭蕉

月、まのまをり、まのま、 山児

まのまのまをり、まのま、 旭若

まのまのまをり、まのま、 蓼太

鶯入

鶯入、まのまをり、まのま、 乙由

このまのまをり、まのま、 蒲道

鶯入、まのまをり、まのま、 青蘊

白鷺

白鷺、まのまをり、まのま、 土芳

青を

青を、まのまをり、まのま、 知白

表を

表を、まのまをり、まのま、 可董

おのまをり、まのま、 牧童

秋路の雨、まのま、 曉臺

龍橋

龍橋、まのまをり、まのま、 言水

鶴久

鶴久、まのまをり、まのま、 二柳

瓢

瓢、まのまをり、まのま、 大紅丸

かたよ、まのまをり、まのま、 大紅丸

種瓢

二つおく人の心おれふくた^本生備
白りな^本青^本お^本へ^本凡^本地

推察

冬凡

鳥凡

舟凡

厩

か^本凡^本戸^本を^本も^本紫^本う^本と^本控^本られ^本し^本 園木
市^本の^本多^本も^本あ^本れ^本天^本 凡^本 杜^本雪
お^本く^本て^本さ^本ひ^本ー^本鳥^本凡^本 夢^本太
初^本下^本お^本ら^本て^本た^本く^本い^本さ^本の^本 千^本代
お^本下^本お^本ら^本さ^本て^本声^本さ^本ら^本り
お^本下^本や^本帆^本柱^本お^本ら^本か^本り^本舟^本 渾^本堂
厚^本た^本て^本た^本も^本あ^本れ^本さ^本れ^本か^本 遙^本望
懈^本一^本重^本志^本さ^本て^本さ^本ら^本い^本の^本さ^本 乙^本由
そ^本と^本冷^本る^本お^本中^本よ^本い^本ら^本い^本の^本さ^本 丈^本州
お^本考^本さ^本め^本て^本さ^本ら^本い^本の^本下^本 青^本蘿
か^本つ^本つ^本と^本い^本ら^本る^本お^本と^本あ^本ら^本り

西^本の^本か^本り^本の^本い^本さ^本り^本の^本下^本 曉^本臺

鴨

渡鳥

家木

これ^本ま^本い^本ら^本る^本さ^本ら^本い^本の^本園^本が^本 蘭^本更
下^本り^本て^本南^本の^本一^本枝^本は^本さ^本ら^本り^本 大^本江^本丸
う^本け^本は^本よ^本お^本い^本れ^本て^本た^本ら^本し^本鴨^本の^本後^本 曉^本臺
鴨^本さ^本ら^本て^本日^本の^本下^本の^本さ^本ら^本い^本ら^本り^本 尚^本白
鴨^本さ^本ら^本て^本一^本さ^本ら^本い^本ら^本る^本舟^本 氷^本苔
鴨^本さ^本ら^本て^本月^本さ^本ら^本い^本ら^本る^本二^本月^本計^本 團^本更
鴨^本さ^本ら^本て^本さ^本ら^本い^本ら^本る^本舟^本 二^本柳
月^本の^本さ^本ら^本い^本ら^本る^本舟^本の^本下^本の^本さ^本ら^本い^本ら^本る^本 色^本蕉
下^本り^本て^本さ^本ら^本い^本ら^本る^本舟^本 也^本有
系^本を^本さ^本ら^本い^本ら^本る^本舟^本の^本下^本の^本さ^本ら^本い^本ら^本る^本 曉^本臺
小^本舟^本後^本 小^本舟^本の^本さ^本ら^本い^本ら^本る^本舟^本の^本下^本の^本さ^本ら^本い^本ら^本る^本 蕪^本村
さ^本ら^本い^本ら^本る^本舟^本の^本下^本の^本さ^本ら^本い^本ら^本る^本舟^本の^本下^本の^本さ^本ら^本い^本ら^本る^本 白^本芝
家^本木^本の^本さ^本ら^本い^本ら^本る^本舟^本の^本下^本の^本さ^本ら^本い^本ら^本る^本舟^本の^本下^本の^本さ^本ら^本い^本ら^本る^本 家^本木

木つたの入とるり救のね 文章

山雀 ふくや種のお木さ藤にまゝ 燕村

百舌鳥 草堂よ鶴の心いしうれたり 野坡

栗採や日に入ると鶴のまゝ 曾采

鶴鳴て風眼とまゝるこれ 圃更

弱鳥 鶴牛の弱もよ撞ひやめけ後 沾葉

様も ククれとてぬす様の羽音か 一保

鶺鴒 さくらいや壁土とぬる碑の上 磨盤

鶺 さらさらとてらして鳴るる 即高

そらととそらとや鳴るる 飄竹

そのつひ小鶺のまけけしけが 希因

風つゝ小鶺の深まのやせ終 堯臺

うれても救が志まぬ鶺か 千代

鶺 さらさらとて風とるる 葵村 鶴立

旭吹 鶺鳴やととと鳴るとさういふ 托巾

蘇 山伏の鶺ふくオよ入ふらう 嘯山

蘇 つゝいま一石のトうらうらう 圃更

蘇 鳴るる鶺とけハ冷まあじか 一口

鞋 鞋のまてあの上まゝむむを根か 風孤

鞋 鞋をんてさう然のさる川田村 圓木

素 おとやひとつとてははや無風 蕪葉

素 おあじし小尻のあうれ後のは 惟然

素 ありれとやのてらふのさ 萬宇

素 靴さかたのさうとてはははの足 村若

素 藤のまや角のいふはさうとて 白藤

素 鳴りけいふさうとてはははのつゝ 轍土

素 山鳥のあはれとてはははのま 希因

御幸のきけち家の藤 陽川

こころのきけち家の藤 木導

月代よつとひらや藤の袖

つれて藤のつくとふあめぬ 圃更

ふまると藤のつくとふあめぬ 大江丸

藤のつくとふあめぬ 蕪村

夕ぐれとひとあつてと藤の千代

あの子のつとふあめぬ 雲口

あの子のつとふあめぬ 野坡

あの子のつとふあめぬ 正秀

あの子のつとふあめぬ 探芝

あの子のつとふあめぬ 大江丸

あの子のつとふあめぬ 如泉

あの子のつとふあめぬ 蕪村

あの子のつとふあめぬ 蕪村

つよ

月よ藤のつとふあめぬ 也有

五位のつとふあめぬ 馬印

あの子のつとふあめぬ 陽和

あの子のつとふあめぬ 大魯

あの子のつとふあめぬ 希因

あの子のつとふあめぬ 湖天

あの子のつとふあめぬ 秋色

あの子のつとふあめぬ 蕪村

あの子のつとふあめぬ 魯江

あの子のつとふあめぬ 蓼太

あの子のつとふあめぬ 大虚

あの子のつとふあめぬ 蕪村

あの子のつとふあめぬ 乙由

あの子のつとふあめぬ 孤屋

あの子のつとふあめぬ 孤屋

稲

あの子のつとふあめぬ 孤屋

箱にけり後みおし山家邦 馬印

田刈 箱刈や待美さうおれまへ 榮枝

その列のおもふまへうへ田刈邦 也有

尾植 尾植ひうふ懸りおのうけあじ 乙由

尾植拵ひ日ちるるふへあじ 蕪村

栗 栗のこも裁きと清の釣糸邦 支考

栗畑のねくまへしりん入台邦 空芽

九月

九月 あくうた九月日おち教のり 水魚

重陽 りふの菊中箱の飯のくまへ邦 戈磨

九日ふまうか後ち平白拵 待彼

つらねのうまをりふの菊 宇月

出代 出代おのまよとまおあまのめ 金毛

尾

はらふふの音白ちうてたて邦 八乘

尾をね鼓うつし居の力 其角

たうつんものい葉中ま居の力 千代

葉畑まよ氣のうまへ後れ力 佐角

新二おくうぬ後出て居の力 杉風

まへんまのねくまへな月 希因

すさやうた敷をのつうち居の力 也有

ふ葉巻の本方まきう居の力 蕪村

曉いふくのまやのちれつき 青蘿

月名

晴かきや月のなまはとほいし 正秀

外市 外市うておあ拾じん十之板 浮風

八合の月まもまへや外市の 雨聴

年系 つのりのくま月まへ 蕪村

市達官 市達ま西りうへる百年 立吟

菊

手天

若木松の葉よひーちたけむ 支考
 白きもの葉よひーちたけむ
 乙由
 陰ののちうらやむのむ 木導
 水辺のちよれつちのまこく 支草
 りだのちかひづる菊の葉 嵐蘭
 雲のちかひづる菊の葉 越人
 冷酒のおよめあはら一き菊 佃房
 菊のちかひづる菊の葉 千代
 あこまーた梅のちかひづる菊の葉 蕪村
 乙辰おねの火くしんくしん 圃更
 菊のちかひづる菊の葉 大江丸
 菊のちかひづる菊の葉 雨汀

蘭

月夜まゝのむしひちんらん 青蘿

草持

香のちかひづる菊の葉 龜世
 たけ持やまこ穴とまこく 座羅

松茸

松のちかひづる菊の葉 吾仲
 松のちかひづる菊の葉 惟然

松皮

松のちかひづる菊の葉 甲乙
 松のちかひづる菊の葉 大江丸

松葉

松のちかひづる菊の葉 支考
 松のちかひづる菊の葉 李由

ようしてさるる菊の葉 蕪村
 ちかひづる菊の葉 蓼太
 菊のちかひづる菊の葉 支考
 菊のちかひづる菊の葉 圃更

高麗葉 本は芥のこころに似たり 佐考

松 松のこころに似たり 佐考

木質 松のこころに似たり 佐考

板葉 木質に似たり 佐考

梨 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

栗 木質に似たり 佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

佐考

懐熟や一徹へつたあゝの音 春坡

籟引 引上こふゆてこふゆてこふゆて 白扇

鳥巢 うつこふゆのほろやせぬやふ 大岫

あまのすんまゝすあつ下こ月 稻丸

塵 秋うつうつうつうつうつうつうつ 七里

塵よはやくと秋しここあなほ 支考

生は葉ちちちちちちちちちち 千川

雁はまゝるらんらんらんらんらん 柳七

ね草のやまのふくれくれくれ 毛細

灯火は風うつらうつらと 青羅

仁ねちちち門のふゆふゆを 几董

よそのおふねあふちちち 大魯

青きうてふよきうてふ 千代

雲若 雲よはれはれはれはれはれはれ 雪芝

露時雨 ちちちちて木まふちちち 幾駐

紅葉のまのふつふつと 希因

冬待 已又目も出てゆきやゆきのそら 露川

秋晴 戸を叩く狸と秋を晴またり 蕪村

昔秋 秋ふれてこひし花の匂は 昌瑱

行秋 行秋やあつちちちちちちち 芭蕉

行秋や別深ぬきしきこの秋 乙由

行秋のにひひららす 文章

行秋よまゝな程もふた 牡年

行秋やあつちちとほせし 誠人

行秋やあつちちとほせし 二柳

行秋やあつちちとほせし 大宛

冬

十月

初陽の ひとあす 霜のまゆじ 初陽雨 支考
 秋葉のやぬのまゆじ 初陽雨 許六
 故郷のまゆじ 初陽雨 前口
 はこらの 庭のゆひら 初陽雨 野坂
 其葉のぬれまゆじ 初陽雨 乙由
 初陽雨 初陽雨 西谷
 を返して 初陽雨 諷竹
 こけらの 初陽雨 青巖
 傘程の 初陽雨 淡々
 初陽雨 初陽雨 蘭更
 降る 初陽雨 千代
 降る 初陽雨 句空

時雨

いそぐ 舟の初陽雨 帆行 帆 去来
 汐の初陽雨 帆行 帆 李由
 暁の初陽雨 帆行 帆 木因
 早の初陽雨 帆行 帆 浪化
 早くて 初陽雨 帆行 帆 野坡
 本葉のぬれ 初陽雨 帆行 帆 乙由
 沈の初陽雨 帆行 帆 北枝
 竹の初陽雨 帆行 帆 野坡
 食時 初陽雨 帆行 帆 去来
 朴の本の伐は 初陽雨 帆行 帆 宇津兼
 松苗の初陽雨 帆行 帆 三岐
 炭の初陽雨 帆行 帆 知外
 篠の初陽雨 帆行 帆 水因
 時雨の初陽雨 帆行 帆 青巖

竹葉のやうな音と持てられ 歳入

身悪もねくもみゆめく山登り 空若

ひりししし此の事も思ふ村めし 壺中

昔のやめもよ交るやめのおと 朱拙

押あささ相いものうすし氣哉 野坡

十月 十月のひいねくたつようね 縣草

十月の人まよまの月あつね 五明

十月 鴨のねくもくくわら月 甫尺

初冬 初冬や白湯の味も後家の屋 千梅

初冬 初冬の機も入るやたりしす 蓼太

小春 小春の葉も刈るも小春を計 鬼貫

初冬 初冬よふもれふもれふもれ 李由

鶴のねのまおすこのふもれ 涼節

非送 戸をささくをささく非送 ころ

昔のものと初れはささく非送 鬼貫

け里の年のきりきり非送ころ 木枝

昔 挽のねくもよせいれいま枝が 除風

まろしと解後まよれおのこ非 徐寅

昔よねつておのこころの氣平内 太極

昔 昔のころやまもねくも孫次 白雄

昔 昔の白狐非と唱んはけりね 二柳

昔 昔のころや其角の孫の冬牡丹 大江丸

十月やねしと成ふも非 大魯

昔 昔の氣改さうころの御令儀 芭蕉

一人の鼻よ痛おけ所令儀 史邦

御令儀や所よの上の麻袋 奚魚

上もや月お照り御令儀 儿董

十夜 小切まの伯父よあやろ十夜非 乙由

下糸のくこのよこも十枚井 許六
 竹火の鴨居のひくも十枚井 岱水
 白の田の隣へひくも十枚井 千梅
 居風呂とふるまはれも十枚井 史邦
 蓮化のおももつひも十枚井 涼備
 新江のよこおもも十枚井 也有
 あきとよと茶もたふも十枚井 蕪村
 お湯又よこももろりぬえ紙 芭蕉
 玉裏百人あそぶもろこし 山庄
 水くろ紙内美のよろり紙在 嵐竹
 水くろ紙くろろろろろの次 史邦
 ひくもろろろろろろろろ 戒講 去来
 せしこのちろろろろろろろ 杜若
 ちろろろろろろろろろろろ 戒律 曉臺

庶敷

妻住

お糸

お

お糸や糸冷ゆる後の強 芭蕉
 おももやうてつちうろ酒の輪 史邦
 おももや糸もこもろ種れも 野坡
 何物そよろひもこもろ種れも 一枝
 糸をちやちひつれもろろ 正秀
 戸よこりちおの糸糸五竹の門 横草
 隠家や糸もこもろ種れも 路通
 ひくもこもろ種れもろろ種れも 惟然
 ちろろこもろ種れもろろ種れも 芭蕉
 有めちろろ種れもろろ種れも 騷道
 るめちろろ種れもろろ種れも 馬肝
 糸の種れ日の出てもろ種れも 卧央
 糸の種れ日の出てもろ種れも 蘭更
 糸の種れ日の出てもろ種れも 大江丸

風

ね枝のつらねをわのひうりつれ
大に丸
おのろよあまけもねーまね
利牛
風や天井くくの堂の内
林紅
石板のうらりおやくら拵
夫柳

風や秋のまうこく鳩の声
雨色
風よささうりつとまらにまね
乙由

風や井まかうれてまうらぬ
色煮
風よいの鮎ひらむ入江井
露沾

風や橋たさく海の若ふらん
四酔
風よともあはらりや春の角
元梅

風よいつとらうりや馬姓
正秀
風のおめあしれやまの鈴
陽和

風や雲よかしくつく仲角
蝶夢
おきやんねつとまおま
暉望

お雪

雪のりりおきさういん帚うり
氷巻

お雪やまきすくもねしねら
萬年

お雪やひらりふおきいらし
畦足

お雪や人のさけいねのうら
桃隣

お雪や尾止の尻巻つれて
諸九

お雪や雪もねくし星内板
巴人

お雪や松の心も一うまえ
百卷

お雪や雪ねの回つて星まねけ
佐角

お雪や小松よまよくまら
配力

お雪や雪いふのこね煮相の
青露

雪よ出来おせせうりおきら
鳥明

雪水や神いひおる拵
其角

氷

子川の産くつ氷るありし
燕下
氷風の水さうりわけに氷る
氷巻

氷柱

有明の氷柱に氷る 盛つね 宇路
あまのやうに氷るや 滝のう 柳雨
氷柱董くつねも ねたつら 部 物九
松崎で横まつら の山辺うね 栗山

雪

氷し二月うしね 氷おのそ 可董
冬月 瓦登のまき 一冬の月 千梅
居風名よ鳥もつねに 露川

冬月

寒

冬月 枝とささす 露計 木尊
そけ月らー 豆齋ふ 妙のむ 乙由
そけ月らうと 一年の 氷と水 團更
氷の石のまき 言ひ 枝計 白柳
くら風の 水田ふ ねて みる 序令
五箇の くらむ みる みる 去来
氷の くらむ みる みる 路通

きんたねやねよこゆの青 押草

お茂川の二影よねりて 風國

おのよきー 宿連の けら 荊口

小葉風よ 葉と 枝うら 斜嶺

野の ぬもさー ね 糸 汶村

のちよ 唯ひく みる 麦光

葱白く ぼひ 上らる 芭蕉

葉曲て ねらよ 押込 草離

くくね ねらう みる 白雄

をさる ね 枯木の中 斗入

ふさ きたる 流の 毛の 大丸

崎うらよ 鉄櫃 和及

よお 生や 色い 色蕉

野の みる 本も ねら 諸九

冬夜

きん

氣のよやそねしんをん其角

唇のよあいつうそりり涼菴

さうむい橋うこそりり風律

居眠そとみはうれんを死燕村

常の果の隣をうりり青蘿

文振

そりれの破今潮をこりり芭蕉

そねやひりり牡母のちをりり千代

そねやるふ茶をうりり窓巴

茶切

口切や五山をんはのりり燕村

が岡

が岡やそあうりり母のりり杜若

が岡やそとすをのりり古帆

目達

茶忘言よかくこりり芭蕉

小室のそねしんをん大丸

火燈せいのそん家むおれ二柳

ひのこの里そまじり火燈お風律

煙

煙火や暖るれい星一ツ乙由

煙火やほりり来るおのりり浪化

煙火よねうそりりひりり青蘿

火桶

おの後のほりり火桶うりり芭蕉

白川の浪とそりり相火桶其角

お後のそりり火桶のりり存義

火桶抱てうねうりりおね臥史

籠よまてんよをりり火桶お燕村

火鉢

火鉢抱て居まふおねおね祐昌

湯婆

湯婆二おねおねおね白雄

指

指や指くおの火のりり酒堂

播の大坂たつたつて入るうう 後左

逆戸をすすむらるる指火井 仙李

炭とてむきこくせう森耳井 嵐雪

ふいねーや火釜をさそふ 大魯

灯をたてるひまぬ炭火のらう井 臥央

炭火のひらうをほく人々の雨 其角

炭火や街のほろり 豊成

炭火のゆやゆめりりて飛物 半隠

炭火や焼入るるをたれりし 青羅

炭火まふかの世にほけり 蕪村

炭火ふくおとしくり 炭火 蕪更

炭火けりるんか 兆群

炭火お月おしくるん 蕪村

炭火つるるんか 蕪更

紙のるるうい紙のるる 食井 諸九

紙のるる紙のるる 食井 蕪更

紙のるる紙のるる 食井 杉風

紙のるる紙のるる 食井 大魯

紙のるる紙のるる 食井 二柳

紙のるる紙のるる 食井 葉文

紙のるる紙のるる 食井 苔蘚

紙のるる紙のるる 食井 蕪更

紙のるる紙のるる 食井 千代

紙のるる紙のるる 食井 白雄

紙のるる紙のるる 食井 鬼貫

紙のるる紙のるる 食井 野坡

紙のるる紙のるる 食井 吉仲

紙のるる紙のるる 食井 史部

ひのめをもししうらなふをり 蕪村

あまの ぬくけいけいんをふもれたる 菅菰

こいんをちこる徳臣の門をく 二柳

あまの 葉のむの中いこけいなるを 千山

ぬをぬのたもるあまの葉を 去来

あまの葉をぬのたもるあまの 浪化

あまの葉をぬのたもるあまの 蕪村

あまの葉をぬのたもるあまの 曉臺

あまの 葉のくくあまの葉をぬのたもるあまの 牛寂

あまの葉をぬのたもるあまの 木導

あまの葉をぬのたもるあまの 月尋

あまの葉をぬのたもるあまの 逸渙

あまの葉をぬのたもるあまの 蕪村

あまの葉をぬのたもるあまの 大江丸

あまの葉をぬのたもるあまの 祐昌

あまの葉をぬのたもるあまの 標良

あまの葉をぬのたもるあまの 石文

あまの葉をぬのたもるあまの 涼備

あまの葉をぬのたもるあまの 團水

あまの葉をぬのたもるあまの 乙由

あまの葉をぬのたもるあまの 李冠

あまの葉をぬのたもるあまの 序合

あまの葉をぬのたもるあまの 野波

あまの葉をぬのたもるあまの 大元

あまの葉をぬのたもるあまの 蕪村

あまの葉をぬのたもるあまの 菽子

水仙

冬牡丹

枯柳

赤松

赤松

蕪村

きききやしらんく新く夜も
まきまきやまの二葉のつら
杜若 白圃

柘葉 炭屑よ小舟 柘葉白ひり
几董

柘葉 ねお近れまの柘葉 雨序し
千梅

柘葉 萩柘てふ葉のゆきとらやう
惟然

柘葉 一はゆく萩のこけり青
窓巴

柘葉 気をつけてみる能をし柘葉
杉風

柘葉 おまきうておまぬ柘葉を
園更

柘葉 ねろくお振つゝおぬ柘葉を
曉臺

柘葉 柘葉おのひうてうておぬまう
斗入

柘葉 柘葉おのひものおぬ奥
二初

柘葉 片柘てこまおぬおぬのち
園更

柘葉 日のおぬまきおぬ柘葉
蕪村

柘葉 柘葉おのちおぬまのつゝ
園更

柘時 鶴と鳴柘時よけく白鳥 扣雅

鳥おりや柘時よ色の上 秋之坊

好鶴の抱えりうらふこれの卦 康工

只さうよ抱いけりて柘時卦 乙由

鶴鳴け尋たよみぬうらの卦 其角

えうくまの柘時おぬも并萩 蓼太

ぬつろくく夕を芳くりの柘時卦 曉臺

山と載す人あがれて柘時卦 蕪村

ふ落を 下刈の藪とれいこついの卦 養浩

流をとらふる白やうつれを 碧川

表萩 夕付日ぬらんてやうやま高 半残

ま萩や一臥いふむふ風 乙由

何代 何のふれくえかあうらふ 近之

細袋 柱のしるこ由る細代の無却 曉臺
川つやき吹ぬ久細代も 其繼

有 粒政のまほかこつて細代も
孫えよ月くそも細代も 牧童

氷魚 月くけのくさけいより氷魚 松笠

氷後 氷後浪のこもやきも 我々

氷も 氷もとびあつちうふおし 蕪村

あまや秋のひちちる人のる 青蘿

あまの浪よ鼻つくわつが 乙州

街 街つらあや雪河の葉雜炊 千那

津坂つらたおまかつ街 元灌

雪ふんく足控こくれつ街 杜若

村も雪しめいふはしとや 風律

あつちのこられもあつちも 曉臺

まこひまのまこひま 儿輩

村雨よ音もまこひま 蕪村

くらたつ海もくはらも 門瑟

まねまよよらあつち街 松元

雨やんてせらるるも 大江丸

やいらふるさつとくや鶴の角 雪芝

けららとふつとくやう 芭蕉

鴨もやらうた田のたら 二柳

夕鶴の浮海もよあつち 風律

氷のまこひまもよあつち 文里

氷のまこひまもよあつち 曉臺

氷つひのまこひまもよあつち 吾仲

氷つひのまこひまもよあつち 歌扇

氷のまこひまもよあつち 北枝

氷

東や雪や夕月も入一後 蝶夢

まきや雪のほせら峰の松 鬼貫

海京や一涼氷了雪の冬 除風

雪や折やけかも海あふこもち 蜂房

雪や折やめをもみはとよき 麦水

雪をかためておきとぬらち 尺素

雪のゆぬ玉やつふぬきまき 枝東

雪や雪の物さうや冬は境 許六

雪うらして牡丹よきぬ冬の隣 二竹

十一月

雪月 かんが月を雪のうらみ嵐のね 杉風

雪月 一しかり雪のうらみ月 矢迪

雪月 雪の尾のうらみ雪のうらみ 乙由

小山の月をせしむる冬玉抄 石蘭

に秋越て冬玉の加白々り 蒼洲

雪意 携るや雪のそなへる 染山

雪意 髪を雪枕のせしめ 桃園

雪意 けやくや吹草の海のかん 竹戸

雪意 かりしうもねらふ雪のそなへ 北枝

雪意 板橋よや雪のそなへる 儿蓮

雪意 流と流縁絶らんて里外 其角

雪意 川越うらんと帯し 子葉

雪意 うらむ雪の衣袋はまはけの雪 青流

雪意 新雪や人よおき 夢太

雪意 子葉 雪や折やうらみ 山店

雪意 雪月 雪のうらみ 紫曉

神抄

新日あの影ありぬ影うらたなたらぬた紫雲
 一しやう信てや雨のそらたた 曹中
 流るりのよせなきや新抄 千葉
 備ハハ行となくと病たた 木導
 息よらうと影たたや跡たた 曉臺
 跡たたたたたたたたたた 蕪村
 伝たたたたたたたたた 希因
 跡たたた月たたたたたた 夢太
 松人たた形たたたたたたた 杜若
 といたたたたたたたたたたた 獅吹
 名木たたたたたたたたたたた 乙由
 といたたたたたたたたたたた 其角
 おれたたたたたたたたたたた 蘭更
 神たたたたたたたたたたた 打若

雪

雪たたたたたたたたたたた 千那
 雪たたたたたたたたたたた 望翠
 雪たたたたたたたたたたた 如行
 雪たたたたたたたたたたた 鼠彈
 雪たたたたたたたたたたた 風國
 雪たたたたたたたたたたた 夫州
 雪たたたたたたたたたたた 自樂
 雪たたたたたたたたたたた 一音
 大日たたたたたたたたたたた 蝶夢
 白雪たたたたたたたたたたた 夢太
 才たたたたたたたたたたた 儿董
 おたたたたたたたたたたた 松兄
 なたたたたたたたたたたた 湘水
 たたたたたたたたたたたた 涼鬼

雪

雲吹 月夜も雲も霞も雨も雪も 秋の瑞

雲草 ひろく雲を掛るも冬も 萍花

雲 みるもや雲のそく向り時 平爽

雲 世に居のあらもたれしそれが 史邦

雲 毎のまふの水よかたぬる真が 夢天

雲 新田に居るもろくもあうね 昌房

雲 指きの山田よりうらる雲が 正秀

雲 ありきの大なるもろくもあうね 泥足

雲 ぬくぬく雲のたつ雲が 友静

雲 信じてやま月夜と雲の明 白雄

雲 冬の月夜もろくもあうね 曉臺

大根 人々のやあたらこめて大根引 風國

大根 まくくと根がもろくもあうね 也有

葱 大根引て松風の音もろくも 大元

葱 葱やひよと持たれ葱 孫維

葱 葱くぬぬぬぬや法の器もの 嘯山

葱 葱漬のや葱菜よぬぬぬぬ 楠芽

葱 丁菜 けしのまをろくもあうね 髭風

葱 茶食 ちやせはせぬぬぬぬは茶食 也有

葱 葱湯 我のまけはぬぬぬぬは湯計 蕪村

葱 杖燈 冬料理網さぬぬぬぬ 自柳

貝殻 貝殻 けしけしとぬぬぬぬとぬぬ 芭蕉

貝殻 ぬぬぬぬとぬぬぬぬぬぬぬ 鬼貫

貝殻 人ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 大抵

貝殻 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 大江丸

貝殻 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 蕪村

貝殻 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

貝殻 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ふくとけ打とわさたて喰はる 希友

納豆 納豆とるるとなや崎の言に 丈艸

生海鼠 木の根のうらに思へ生海鼠が 乙由

おひつゝふとるふとるふとるが 蕪村

乾鞋 梅さへふりけかされて海鼠并 二柳

乾鞋も空也の寝もその中 芭蕉

つゝとけよこれたふしれはもの 祐昌

繻 繻と鳴りくけや此つ、 雪芝

曉や繻の吼るまゝの海 曉臺

七浦の人もさうと繻とる 仄尺

お具引 我まよ月お忘れお具引、 二齋

十二月

ゆき かしらうゆきの海のおつり 芭蕉

世の中は揃う上のおを都 如行

おこやけ小角豆も市のおを都 正秀

何卒のおをふとる雀う乳 乙由

おぬるものいゆその平睡部 萬海

急いともぬくてぬらぬぬが部 乙州

おれおのうらよゆきの風計 青蘿

日ころけ音あめこの市は言 二柳

さくりくと雲つふを同歌 曉臺

磨費 いろつしふ進るゝ年と磨費 白雄

臘八 揃八よさ田の倍おぬらり 諸九

揃八やさふ林つゝ倍一人 圃更

寒念仏 寒念仏のうらふららん 康樂

父もぬく母もかたさきまぬ 大江丸

お念仏や氷もる証を着け 諸九

深いまがたうまの夜しきまに 青蘿
 向うふちれまきりきゑに 盤風
 佛舎 仏名やあかぬらうまの中 許六
 寒入 かつしし梅や寒なるまの入 二柳
 庭ひろくともや氷氷のまの入 松元
 寒月 きつたや一里えつる天ちを 山父
 きつたや門かき寺の天をし 蕪村
 寒声 きききや南大門のぬれ月 其角
 こしきのみやいつらぬまし人の子と 嘯山
 寒坂路 きつたやまれもまはるまは 二柳
 寒梅 きつたや花ひらつる雪れ上 蓼太
 寒松 早梅又松かまんのけり大 桐水
 きつたやまきりきりきり 千代

梅屋やまの月夜に相りけ 大江丸
 冬積 ぶんてらるる屋の氷やまうた 曾木
 くれ袖も床まきやま枝 一枝
 大雪 雪ふんて大山と出や枝り 古帆
 衣配 衣配いそぬ顔のせりこら 望翠
 煤拂 とし拂やまもぬく敷の中 乙由
 とし拂は已う拂はく大工我 芭蕉
 かつらうの顔も煤とせせり 乙由
 す掃やまひひけぬお月夜 大魯
 舞掃 一とや掃つて白のまれ水 萬子
 ぬきぬれ舞つて音の波を満 九北
 舞つたやまれけりおのま 五丸
 ぬりや雪あつたお舞のま 園更
 板をぬきまはつてくまもれ舞 希因

節季の せとこは 報謝の公取うけり 鬼園

せとこや 月ふつく 袋 振 浪化

節が 豆と 赤豆の中 ぬき 其角

鬼が 赤豆や 赤豆の ぬき 猿 雖

終賣 於て 價定と 日ふ 柳水

鬼あつて 月ふつく 於て 太丸

年忘 魚考の ぬき 芭蕉

赤人の ぬき 乙州

本原の ぬき 幽泉

人ふと ぬき 杉風

ぬき 曲翠

ぬき 碧

年忘 居風 乙由 千代

年忘 年忘 希因

年忘 年忘 龜洞

年忘 年忘 太丸

年忘 年忘 鬼貴

年忘 年忘 諸九

年忘 年忘 乙由

年忘 年忘 乙由

年忘 年忘 乙由

年忘 年忘 乙由

年忘 年忘 乙由

年忘 年忘 乙由

年忘 年忘 乙由

年忘 年忘 乙由

年忘 年忘 乙由

年忘 年忘 乙由

昔 羽衣ついでたのむもくろふ世日 蝶夢

昔 鶴下る日まはらうにたふす日 其角

昔 ぬく丸月の栢や大二十日京 移竹

昔 日一人のあふみの一日のぬ 仙化

昔 ひとしやふ紫文のくくる炭 沙明

昔 けしやふとまらぬ半の角 青蘿

昔 けしやふおぬるまき書 其角

昔 けしやふ源の内なるまき書 米角

昔 けしやふおぬるまき書 其角

昔 けしやふおぬるまき書 其角

昔 けしやふおぬるまき書 其角

昔 けしやふおぬるまき書 其角

昔 けしやふおぬるまき書 其角

昔 けしやふおぬるまき書 其角

拾のけしやふおぬるまき書 其角

養つりし月おぬるまき書 其角

昔 けしやふおぬるまき書 其角

昔 けしやふおぬるまき書 其角

大車や新波堀江の鴨の夢 春鏡

四季書後句集 大倉

夫

大阪 淺野高造筆

文化八年辛未
八月吉日刻成

江戸書林

西村源六
角丸屋甚助
須原茂兵衛

浦井徳右衛門
菊舎太兵衛
野田治兵衛

京都書林

大阪書林

平野屋 宗七

秋田屋 太右衛門

布尾 忠三郎

鹽屋 平助

鹽屋 忠兵衛

藤屋 徳兵衛

敦賀屋 久四郎

今津屋 辰三郎

藤屋 善七

